



通院がとぎれて行きにくくなっても、できればもとの先生に

ぜんそくの治療は過去の情報がとても大切。治療がとぎれてももとの先生に戻って治療を再開したい。

調子よかったので、なんとなく日記や薬がいいかげんになり、治療を中断してしまったので主治医にかかりづらくなってしまった…。こんなときは、今度調子が悪くなったときは他の病院にしようかと思われる方もいるようです。176ページでもお話ししましたが、ぜんそくの治療では過去の情報がとても大切です。治療を中断してしまうほど調子がよくなっていたということは治療がまあうまくいっていたということですから、行きづらくなったのは余計に惜しいですね。

多少はチクリと言われるかもしれませんが、やはり主治医に戻りそれまでの情報をきちんとお話しし、治療を再開するのが一番いいと思います。どうしても本当のことが言えないのであれば、しばらく実家に行っていたとか、母親が体調をくずしていたとかを理由にしてもいいでしょう。

医師やナースも、お母様に治療を中断してはいけないことを守っていただけなくらいの説明しかできなかったのですから、100%お母様が悪いわけでもないんです。

でもどうしても戻れないと思われるなら、転院も仕方ありません。ただ、その場合、前のかかりつけ医の治療方針をそのまま転院先で求めてもよい信頼関係は築けません。日記やお薬手帳をお持ちになって、少し治療が逆戻りするの覚悟して、新しい先生に相談する気持ちでいきましょう。

